



第4学年 社会科学習指導案

1 単元名 「自然災害からくらしを守る」

2 単元の目標

東京都での自然災害から地域の安全を守るための諸活動を、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伊豆大島の火山災害、関係機関の協力などについて、地図や年表などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ②調べたことを文や表などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見だし、災害から人々を守る活動について考え、表現している。 ②比較・関連付け、総合などしてその働きを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

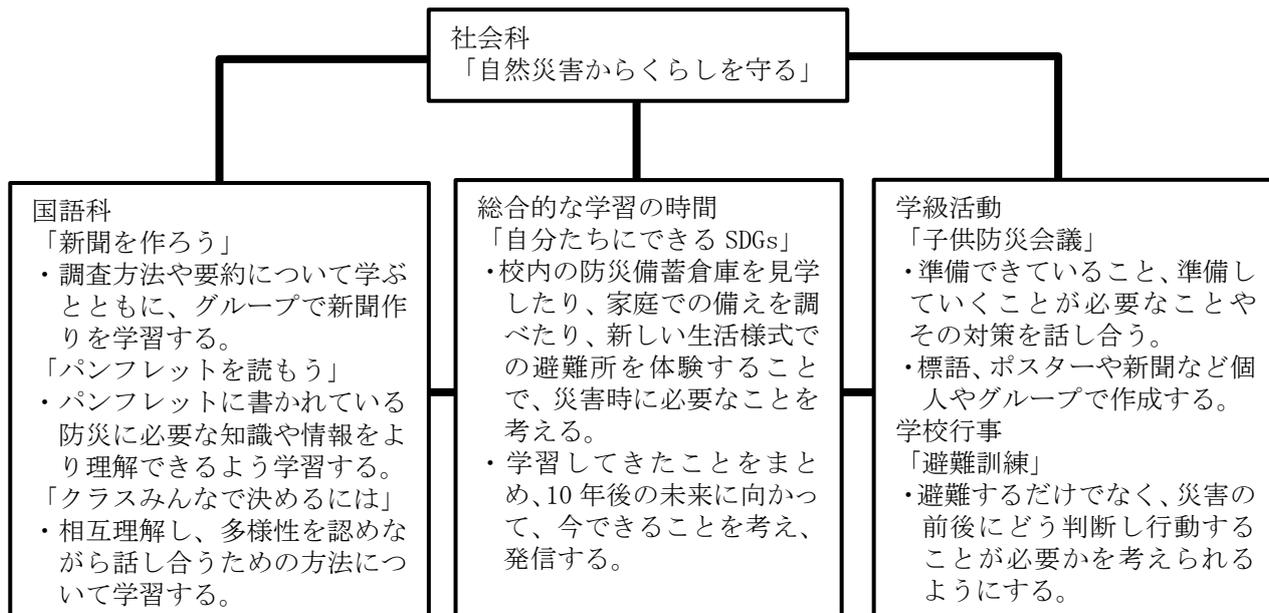
4 単元について

本単元は、今回の改訂から新しく導入された単元である。昨今、防災教育が求められていることを背景に、本副読本では、三原山の噴火が取り上げられている。共助、公助により、全島民が無事避難したことを事例にして、関係機関の連携を学習する。また、大田区のハザードマップを使った学習においては、自助も含め防災に対する意識をもたせることをねらいとしている。

5 SDGsとの関連

- [関連目標⑪] 身近に発生する災害からくらしを守るために、自分にできることを考え、発信することは、安全かつ強靱で持続可能な居住への実現に近づくことができる。
- [関連目標⑬] 気候変動や自然災害に対する影響を考えることは、環境に適応し早期警戒に関する自分たちの意識を変容することにつながるができる。
- [関連目標⑰] 自助・公助・共助の視点から、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを学習することは、「誰一人取り残さない」ための行動に結び付くことができる。

6 他教科等との関連



7 児童の実態

自然災害について、本学級の児童は、地震や水害に対しての知識はあるものの噴火についての知識は少なく、自分ごととしては捉えていない。そのため、自分たちの防災の知識や考えを生かすことが難しいと言える。また、知識のある災害についても、地域や家庭での備えについて理解できておらず、誰がどのような活動をしているのか、自分にできることは何かなど具体的に捉えることができていない。そこで、本単元を取り扱うために、避難訓練の経験を想起したり、東京都で過去に発生した災害の年表図など活用したりする。災害は、児童に身近な問題であることを意識付け、自分ごととして捉える。そして、社会参画に対して主体的に考えさせるためにも、他教科の学習内容を関連付けたり、校内の防災備蓄倉庫を見学したり、家庭での取組を調査したりする活動を取り入れ、理解を深めさせていきたい。さらに、新しい生活様式の中での避難所体験活動を取り入れ、今後想定される災害に対し、適切に安全を守る行動ができる力を身に付けさせる。

ESD アンケート（最大値5）では、②未来、⑤協力、⑥関連、⑦参加の数値が高く④伝達の数値が低かった。その情景として、新しい生活様式の中で、友達と交流する場面が少ないことも影響していると考えられる。前学年では、物事に対して興味・関心が高く、具体的な見通しを示すと全体で協力する姿が多く見られた。一方で、自分の考えに自信がもてない児童が少なからずいることから、授業ではグループでの発表やオープンクエッションを取り入れるようにしてきた。また、児童の興味関心が高い、⑤協力、⑥関連、⑦参加を生かし、考える力を養うために、体験してきたことや、資料活用等の情報を全体で共有できるように、交流する場面を多く取り入れている。自分の考えを発信し、学級やグループ内で合意形成を得られ発表していくような体験を繰り返しながら、全体の資質・能力の底上げを目指しているところである。

ESD アンケートの結果



能力・態度	① 批判	② 未来	③ 多面	④ 伝達	⑤ 協力	⑥ 関連	⑦ 参加
4年	3.18	3.15	3.11	2.99	3.48	3.34	3.38

8 研究に迫るための手だて

(1) 児童や授業者が「学びを評価」するための評価方法の手だて

- ア 児童が社会的事象を自分の課題と捉え、学びを評価するためには、児童の思考が見取れるノートの工夫が必要である。ノートには、資料の貼り付けや児童の気付き、疑問、それに対する予想などを記述できるようにする。また、色を使い分けたり枠や矢印で比較・関連付けたりすることで、児童の思考を表現し、一人一人の思考を見取り、評価することができるようにする。
- イ 児童の学習場面に応じて、自分の考えを表現したり整理したりすることが難しいと考える児童が少なからずいる。思考を促し表現するために、考えるためのツール（PMI、熊手チャート、関連図など）を用いて、自分の考えを整理することで自分の考えをまとめやすくする。

(2) 学びを深める学習活動の手だて

- ア 国語科や学級活動、総合的な学習の時間の学習と関連させることで、理解を深め児童自らが自分ごととして課題をもち、学習内容を捉えることができるようにする。また、同じ課題を学級で共有することで、多面的に問題を捉え友達の考えを取り入れながら、課題解決を目指し学びを深めていく。
- イ 自然災害への取組を理解し、災害から人々を守る活動を考えるためには、施設の見学や体験的な探究活動が不可欠である。家庭での備え、ハザードマップを基に地域の調査活動、校内の防災備蓄倉庫の見学、避難所体験等を通して、情報を整理し学びを深めていく。
- ウ 「学びのハンドブック」から、自己評価シートを使用する。単元だけでなく他教科を通して授業のまとめに活用することで、児童の思考の流れを見取り、次時以降の児童に生かすようにする。自己評価シートに記入させることで、学びを深める手だてとする。

9 単元の指導計画と評価計画（全13時間）

時	目標	主な学習内容	評価
1	・東京都で過去に発生した自然災害の種類を知り、様々な被害が生じることを理解する。	・様々な自然災害が発生してきたことを学習する。	・発言や記述内容から、「自然災害を知り、人々の生活に影響が生まれることに着目しているか」を評価する。【思－①】
2 本 時	・三原山の噴火と人々の避難に関心をもち、島の人々の命や暮らしをだれが、どのようにして守ることができたのか学習問題を立てる。 噴火から人々の命や暮らしを守るために、だれが、どのような取組をしたのだろうか。	・イラストやグラフなどから、学習問題をつくる。	・発言や記述内容から、「自然災害の時に、人々の避難の方法や避難生活に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思－①】
3	・学習計画の予想から、町役場、東京都、政府の取り組みを調べる学習計画を立てる。	・学習問題を解決するための学習計画を立てる。	・発言、記述内容や学習計画表から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持っているか」を評価する。【主－①】

4	<ul style="list-style-type: none"> 大島町役場や東京都がどのようにして島の人々を避難させることができたのか、その取組を調べて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大島町・東京都の取組について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言や記述内容から、「時系列で行政の取組を読み取り、災害時に対処する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【知－①】
5	<ul style="list-style-type: none"> 政府はどのようにして島の人々を避難させることができたのか、その取組を調べ理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府の取組について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言や記述内容から、「時系列で政府や関係機関の取組を読み取り、災害時に対処する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【知－①】
6	<ul style="list-style-type: none"> 島の人々は、どのようにして避難することができたのか、その取組を調べ理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 島の人々の取組について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言や記述内容から、「時系列で消防団員や地域の人々の取組を読み取り、協力して避難体制に努めていることを理解しているか」を評価する。【知－②】
7	<ul style="list-style-type: none"> 島の人々の都内の避難所での生活や全員帰島したことについて調べ、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での生活について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言や記述内容から、「避難所での生活を調べ、全国からの支援を頼りに協力できたことについて考え、表現しているか」を評価する。【思－②】
8	<ul style="list-style-type: none"> 大島では、それからの火山災害の備えをどのようにしているのか調べ理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> それからの大島町の取組について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言や記述内容から、「災害時への備えについて、連携・協力している関係機関の働きを比較・分類し関連付けて、従事する人々の働きを考え表現しているか」を評価する。【思－②】
9	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対して、関係機関の協力について時系列でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自然災害からくらしを守るために、自分たちにもできることはないだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対して調べてきたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 記述内容や関係図などから、「行政などの関係機関は、島民の命を守るために、相互に連携して災害時に対処する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【知－②】
10	<ul style="list-style-type: none"> 大田区のハザードマップなどを調べる活動を通して、自然災害は身近にあることを知り、大田区の防災への取組を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大田区の防災の取組について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言や記述内容から、「資料から自然災害を身近に感じ、災害時の大田区の取組を読み取り、防災内容を理解しているか」を評価する。【知－②】

11	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や家庭、学校の防災への取組を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・学校の取組について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や記述内容から、「災害時の地域や学校などの取組を読み取り、防災内容を理解しているか」を評価する。 【知-②】
12	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ノートなど資料を活用し、災害に対して自分たちができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちにできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や記述内容から、「これまでの学習を振り返り、さらに調べることを見だし、見通しを持って追究しようとしているか」を評価する。【主-②】
13	<ul style="list-style-type: none"> ・東京マイ・タイムラインを活用して、災害時の行動を判断できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちにできることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京マイ・タイムラインシーターの記述内容から、「学習したことを基に命を守るためにできることを考えようとしているか」を評価する。【主-②】

10 本時（2／13時間）

(1) 本時の目標

伊豆大島の三原山の噴火と大島の人々の避難に関心をもつとともに、災害から人々のくらしを守るための安全な避難の仕方について学習問題を立てることができるようにする。

(2) 展開

時間	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導入 5分	<p>○ 2度の噴火と被害者の数を比較し、気付いたことを話し合う。（資料1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1986年の噴火は大きい噴火ではないからだと思うな。 ・ 被害が出ないような工夫があったのかも知れないな。 <p>○ 三原山の噴火映像を流し、全体で状況を共有する。（資料2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とても大きな噴火だったのか。 ・ こんなに大きな災害だったのに、被害者がいないのはどうしてだろう。 	<p>◆ 資料1で被害者の数を比較させ伊豆大島の噴火時とその前後に興味をもたせる。</p> <p>◆ 支援が必要な児童には、被害者の有無に焦点化し、比較しやすくする。</p> <p>◆ 映像を見るととき、噴火の大きさに気づかせる場面のみ映すようにする。</p>
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">伊豆大島の火山さい害では、人々はどのように避難したのだろうか</div> <p>○ 噴火から全島民が避難し全員帰島するまでの時系列を整理しながら、気付いたことを話し合う。（資料3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 警察や消防など協力して避難している。 ・ 助け合って避難している。 ・ 避難生活は大変そうだ。 ・ 島に戻ってもどこか不安そうだ。 <p>○ 学習問題を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「ふん火から人々の命やくらしを守るために、だれが、どのような取組をしたのだろうか。」</div>	<p>◆ 状況を整理しながら、「人・もの・こと」を視点に話し合いを通じて考えさせる。</p> <p>◆ 支援が必要な児童も考えられるように、具体的な場面の写真や矢印など時系列に整理し、状況を理解しやすくする。</p> <p>◇ 発言や記述内容から、「自然災害の時に、人々の避難の方法や避難生活に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思-①】</p>
まとめ 10分	<p>○ 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな噴火が起きたのに、被害者がいないことに驚いた。自然災害時、自分がどんな行動を取ればいいのか、学習を通じて考えたい。 	<p>◆ 本時の学習で気付いたことや考えたことを振り返る。</p>